

# 素材企業 新常態へ

JFW-JC2021、  
PTJ21年秋冬から

中

## サステイナブル素材の開発加速

の開発を挙げた。同展も機運を盛り上げようと、出展者のサステイナブル素材を展示する「サ

ステイナブル・テキスタイル・コーナー」を新設した。リサイクルやオーガニック原

の様々な試みが見られた。「魚のうろこから抽出した成分をレーヨンに混ぜた『ウーモ

従来品とあまり価格差なく販売できる。1日から即納するため使いやすい。今後、リサイクルなどの法整備も進むとみて「先手を打つ」構えだ。

ようになっている」という。足元でも期中発注が増え、ロットは縮小しており、「小ロット、QR対応を強化しなければならぬ」と危機感を示す出展者も複数あった。

リース専門商社の溝呂木は、ストックラインとパイオダーに分けて提案した。ストックラインは中国製のラッセルレースや、仏メーカーのリバーレースなど。東京本社に在庫し、QR対応する。

ストック機能のないメーカーも少量対応を強めている。和歌山で主に糸染めを手掛ける吉田染工は、自社で保有する島精機製作所のコンピューター横編機「SRY」を用いた生地・製品を提案。華やかな見た目とともに、少量から生産できる横編機ならではのメリットも訴求した。

クロキは、海外的オーガニックコットン紡績糸を大量に仕入れることで、オーガニックコットンデニムを通常品とさほど変わらない価格で提案する。超長綿のオーガニックコットン糸のため、風合いが柔らかく、きれいなデニムを求める取引先に好評という。

### 求められる小回り

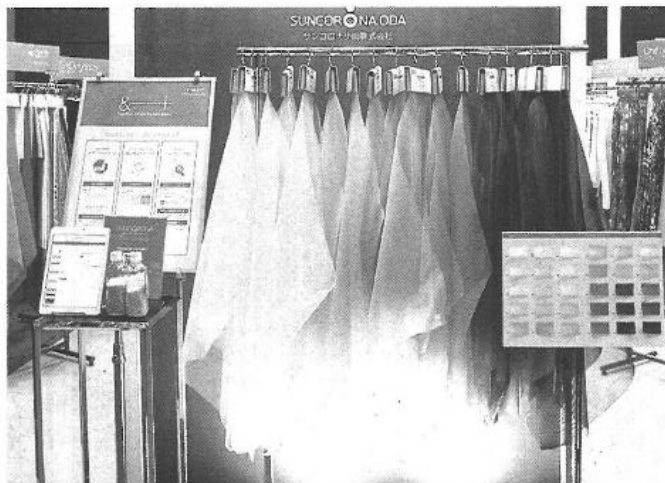
来場者を最も引き寄せた言葉は、「小ロット・短納期」だ。大量廃棄を前提とした生産構造を見直す動きや、コロナ禍による深刻なアパレル不振で、生地の調達を販売時期に引き付ける傾向が強まっているからだ。川田ニットも「在庫している生地を探すが多い」と指摘する。カゲヤマは「在庫を持つ強みからか、新規販路から声がかかる

羽田は、経糸がシルク、緯糸が綿・ポリエステルで、シアサッカー調の凹凸を出した先染めジャカード織物を推す。経糸共通の企画で、5日から受注す

出展者のブースを最もよく飾ったのが、サステイナビリティ(持続可能性)やエコに関連する言葉だ。この数シーズン続く流れだが、コロナ下の価値観や消費行動の変化を受けて加速している。海外に比べ国内パレルの関心はまだ低いが、今後の需要拡大に備え、開発と訴求に力を入れている。

### 価格の壁乗り越える

サステイナビリティへの意識は、ますます強まっている。織研新聞社が開催前に実施したアンケート調査で、出展者にコロナ下での重点課題や強化する取り組みを聞いたところ、多くの回答者がサステイナブル素材



サンコロナ小田はリサイクルオーガニック30色をカラーストック

料は、もはや標準装備となり、風合いや外観、機能性で差別化が進んでいる。バリエーションも広がっている。合繊織物主力の青文テキスタイルがキュブラやレーヨンを経糸に使った生地を開発したり、生地メーカーが環境配慮型のオリジナル糸を作ったり(カネマサ莫大小、羽田)と、サステイナブル素材を拡充するため

「フィル」(国鳥)、「琵琶湖岸に群生するアシを活用」(高麻)、「欠点がある生機をレーザーカットでアップサイクル」(臼井織物)など、ユニークな素材も次々に生まれている。しかし、商談は欧米と中国アパレルが先行していて、「国内アパレルの関心はこれから」「実商売には結びついていない」という声が大勢だ。価格が高くなるのがネックになっているという。

その課題を乗り越える動きも出てきた。極細ポリエステル中心の織物メーカー、サンコロナ小田は、ストック販売の品揃えに、リサイクルポリエステルを使ったオーガニック30色を加えた。薄く、目付けが軽いため、

# ビンテージ調や 手仕事感でぬくもり



川越政



宇仁繊維

## 品良くリラックス

■川越政 経糸に綿、緯糸にウール・リネンを使い、ドライタッチなオックスフォードを開発。ジャケット、パンツなどに向く。土臭い感じをきれいに表現する狙いで、シルケット加工をせずに染めた。

■宇仁繊維 経糸に梳毛調ポリエステル、緯糸に綿・麻の混紡糸を打ち、ツイルにした。ビンテージ加工による表面の繊細な凹凸と、気取りすぎない表情が特徴。パイオ加工で綿・麻の毛羽を落とし、すっきりきれいな雰囲気。

■サンコロナ小田 シルキーなポリエステル割織糸をツイルにした。少し織り組織を目立たせることで、カ



サンコロナ小田

ジュアルな印象にふり、ビンテージ調に仕上げた。



ササキセルム



山陽染工



クロスジャパン



ビエント

コロナ疲れて求められる癒やしやぬくもり。テキスタイルでは、ビンテージや手仕事感、自然を思わせるゆらぎのある表面感に注目したい。不均一な起伏やしわ、色むらを出すテクニクが、中軽衣料向けを中心に広がった。

### ニュアンスある表面変化

■ササキセルム 人のぬくもりや安堵感を与える手仕事のような表現に力を入れた。大事にしたのは、機械のように整えないこと。ウール・ナイロン織物は、ループヤーンを全面に配し、イレギュラーな凹凸を出した。ECなど画面上で行うことが増えているからこそ、触感に訴える素材感やタッチが重要と見る。

■山陽染工 むらや膨らみでビンテージ調が表現できる「ピギー加工」を訴求。水や薬剤の使用を最低限に抑え、低温で処理するなど環境にも配慮しておりサステイナブル(持続

素材から考える  
**ウィズコロナ時代の  
服作り**  
JFW・JC2021、  
PTJ21年秋冬から

③

可能な) 素材としても活用できる。  
■クロスジャパン 織り組織で見たい目にインパクトのある生地を揃えた。人気は、細番手の綿とウールのチェック柄平織物。縮絨加工し、素材の収縮差で、表面に凹凸を出した。レディスのボトムやトップ、ワンピース向けを想定する。  
■ビエント ウールやアルパカ、カシミヤなど獣毛混の横縞みフェイクファーやスライパーニットを提案。モヘヤを使ったフェイクファーは、色と長さが異なる2種類の毛足のものを使い、深みや奥行きを持たせた。

# ビンテージ調や 手仕事感でぬくもり



川越政



宇仁繊維

## 品良くリラックス

■川越政 経糸に綿、緯糸にウール・リネンを使い、ドライタッチなオックスフォードを開発。ジャケット、パンツなどに向く。土臭い感じをきれいに表現する狙いで、シルケット加工をせずに染めた。

■宇仁繊維 経糸に梳毛調ポリエステル、緯糸に綿・麻の混紡糸を打ち、ツイルにした。ビンテージ加工による表面の繊細な凹凸と、気取りすぎない表情が特徴。パイオ加工で綿・麻の毛羽を落とし、すっきりきれいな雰囲気。

■サンコロナ小田 シルキーなポリエステル割織糸をツイルにした。少し織り組織を目立たせることで、カ



サンコロナ小田

ジュアルな印象にふり、ビンテージ調に仕上げた。